

あなたは決別できますか? --- 安全を見捨ててきた国というレッテル。

国際予防医学リスクマネージメント連盟(URMPM) 理事長  
日本予防医学リスクマネージメント学会(JSRMPM) 名誉理事長  
酒井 亮二

ご周知のように、日本での3月11日の三陸沖の巨大地震に由来する複合災害のニュースは、全世界に瞬く間に配信されました。過去の日本が行ってきた災害などの海外支援の成果もあって、全世界に多数の救援支援が起きました。事の初めには、URMPMの世界各国の会員からも多数のお悔やみの言葉が届きました。

しかし、1か月以上を経て、世界の会員からは、以下のように発言も届いています。

- 1) 高度な科学技術立国である日本で、津波による多数の死者を出した。日本は昔からこのような津波災害を繰り返しており、改善の強い意志が乏しい、みじめな国である。
- 2) 危険な原発に関するリスク管理と危機管理が全くなっていない。高度科学技術立国であるはずの日本が、後進国での原発事故並みの放射能汚染を世界にまき散らかす。安全に対しては最低かつ悪質な科学技術政策を持つ、迷惑な国である。

つまり、「日本はその安全意識が開発途上国並みの低水準にあり、高度科学技術立国として極めて悪質である。人類世界に不幸をまき散らす劣悪な国」、ということです。

今、世界からは内心で、日本の安全文化が先進国水準に達していない野蛮国、とみなされています。

この事実を日本は真摯に受け止め、訣別の強い決意を宣言しなければ、日本での安全のマネージメントは三流クラスという国辱レッテルがついて回り、日本民族は海外で軽蔑の対象であり続ける。

今、日本人はこのような国家の危機にも直面しているのです。